

# I. 幼稚部の概要

## 1. 幼児の実態

- ・ 身辺処理、運動能力、認知能力、言語コミュニケーション能力など、それぞれの側面で幅広い発達段階に及んでいる。アセスメントと個に応じた教育計画が求められる。
- ・ 未歩行の幼児もおり、座位の保持や移動に支援を要し、他機関との連携が不可欠である。
- ・ 保育園・幼稚園や他の療育機関を併用している幼児もおり、「個別の教育支援計画」の策定や支援会議の開催などにおいて、連携や協働の取り組みが求められる。
- ・ 年長児については、就学に向けての支援が大きな課題である。

## 2. 教育目標

幼稚部のめざす子ども像

「自発的にいきいきと活動できる子ども (うごく、つくる、あそぶ活動を豊かに楽しめる子ども)」
---

## 3. 指導形態と内容

幼稚部の主な指導形態と幼稚部でつきたい力の関連は、図1の通りである。

### 1) 日常生活の指導

#### (1) ねらい

幼稚部における日常生活の指導は、保護者と情報交換しながら基本的な生活習慣の基礎を身につけることをねらいとする。具体的には、「起きる、食べる、寝るなど一日をリズムよく生活する力」「排泄、食事、衣服の着脱など基本的な身辺処理を行う力」「教師や友達と一緒に遊んだり活動したりする力」をつきたい力として位置付けている。教師は個々の発達段階に応じた活動設定や支援をすることで、その学習機会を保証し、積み重ね繰り返しの中で定着を図るものである。

#### (2) 項目ごとのねらい

##### ① 更衣・身だしなみ

日常生活における衣服着脱の技能の向上をねらいとする。具体的には「靴を履く」「靴を脱ぐ」「服を脱ぐ」「ズボンを履く」「ボタンを外す」「ボタンをはめる」などの指導を行う。「衣服を脱ぐとき肩を抜けるようになる」「腰までズボンを引っ張れるようになる」など段階的な指導を行う。

##### ② 食事（給食指導）

食事に関する意欲・技能・態度の基礎を培うことをねらいとする。具体的には「箸箱の用意」「食事のあいさつ」「スプーンの操作」「咀嚼」などの指導を行う。友だちや教師と一緒に楽しい雰囲気です食事をすることで意欲を高め、個に応じて食材の大きさや食器を調整することで摂食の技能向上を目指す。

### ③ 排泄

排泄の自立をねらいとする。具体的には「おまるに座ることに慣れる」「衣服の上げ下げ、整えができる」「紙の使い方」「いろいろなトイレの使い方が分かる」などの指導を行う。個々の幼児の実態に応じた短期目標を立て、家庭と連携しながら記録をとるなどして取り組む。

### ④ 清潔

清潔に生活するために必要な習慣や技能を身につけることがねらいである。具体的には、手洗い、うがい、歯磨き、鼻かみなどの指導を行う。大人によって清潔にしてもらい、その心地よさを感じることからはじめ、徐々に自分でできることが多くなるように援助を少なくしていく。

### ⑤ 休み時間の過ごし方

各々が好きなことをして遊ぶことで気持ちを安定させたり、友達や教師と一緒に遊ぶことで愛着形成やコミュニケーション、社会性の基礎を養ったりすることをねらいとする。幼稚部における休み時間とは自由遊びの時間にあたる。

### ⑥ 支度・片付け

自分の持ち物の準備や片付けを一人でできることをねらいとする。具体的には、登下校時の荷物の整理や連絡帳の提出、授業時の教材の準備や片付けの指導を行う。毎日繰り返し行うことや分かりやすい環境を設定することによって、少しずつ幼児が一人で行えるようにする。

### ⑦ 清掃

整理整頓や後始末といった将来の清掃活動の基礎になる意欲や態度を身につけることをねらいとする。具体的には遊んだおもちゃを片付ける、造形で出たゴミを捨てるなどの指導を行う。音楽やチャイムなどの合図を手掛かりに皆で一斉に片付けを始めるなど、気持ちを切り替えに配慮する。また、教師が率先して後始末してモデルを示すことや分かりやすい環境を設定する。

### ⑧ 登下校

保護者と一緒に安全に登下校することをねらいとする。具体的には、「手をつないで歩く」「公共交通機関のマナーを知る」などについて保護者と情報交換しながら取り組む。必要に応じて写真カードやバスマップ、路線図などを活用する。

### ⑨ あいさつ

日常生活における簡単なあいさつを身につけることをねらいとする。具体的には、「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉を言えるように指導する。身近な教師や友だちと日常的にあいさつを交わす経験を積み重ねる。

### ⑩ ルール・マナー

集団生活にはルールやマナーがあることを知る。具体的には、順番を待つ、室内で上履きを履く、外では帽子を被るなどを指導する。日常生活の様々な場面で繰り返し経験できるようにし、場面によっては視覚的な手掛かりを用いる。

## 2) 自由遊び

幼稚部の「自由あそび」では、幼児の興味・関心にもとづいてあそびを広げることをねらいとする。具体的には、「自発的に生き生きと活動し、教師への信頼感を基盤として、教師や友だちと一緒に遊んだり活動したりする力」「身近な物や遊具などに興味・関心を

もち、それを使って遊ぶ力」を育てることなどが挙げられる。さまざまな玩具や遊具を配置し、必要に応じて大人があそびを援助するなど、物的環境、人的環境に配慮したあそびの機会を設定している。

### 3) あつまり

幼稚部の「あつまり」は、毎日の繰り返しの中で個別教育計画に挙げられた個々の目標を達成していくことをねらいとする。具体的には「教師や友達に自分の気持ちを伝えたり、簡単な指示に応じたりする力」「模倣して、気付いたり学んだりする力」「教師への信頼感を基盤にして、教師や友達と一緒に遊んだり活動したりする力」「『やった、できた』『楽しかった』など満足感や達成感を味わう力」を育てる。幼児の興味・関心を生かして柔軟に内容を構成するとともに、一定の枠組みでルーティン化することで見通しをもちやすくする。個々の課題に基づき、係活動などの役割遂行場面、友だちとのやり取り場面、選択の理解と意思表示、見立て遊び、やり取り遊び、順番や待つことの意味、模倣など、様々な指導機会を設定する。

### 4) 設定保育表現

「設定保育表現」では、模倣する力や自由に表現する力を育てることをねらいとする。具体的には「模倣して、気付いたり、学んだりする力」、「自分の体を動かして操作する力」、「『やった、できた』『楽しかった』など満足感や達成感を味わう力」を育てる。音楽に親しみ、歌を歌ったりリズム楽器を使ったりする活動や、動いたり演じたりして楽しく表現する活動を設定する。

### 5) 設定保育造形

「設定保育造形」では、「うごく、つくる、あそぶ」を大きなテーマとして、微細運動、色、形、感触などの感覚発達、意欲、集中力などを促進することをねらいとする。具体的には「身近なものや遊具などに興味・関心を持ち、それを使って遊ぶ力」「模倣して、気付いたり、学んだりする力」、「自分の体を動かして操作する力」、「『やった、できた』『楽しかった』など満足感や達成感を味わう力」を育てる。自由画、小麦粉粘土、ぬたくりなど、手足、からだなどで直接触れながら、のびのび楽しくさまざまな素材に親しみ、色や形に関心を持つ機会を多く設定する。

### 6) 設定保育体育

「設定保育体育」においては、移動運動、用具を使った運動など、動くことの楽しさを味わいながら、運動機能を高めていくことをねらいとする。具体的には主に粗大運動を中心に「身近なものや遊具などに興味・関心を持ち、それを使って遊ぶ力」「自分の体を動かして操作する力」を育てる。そのために体育館や園庭で身体を大きく動かしたり、思い切り走ったりといった、体全体を使ってダイナミックに遊ぶ経験や運動量を確保する。

### 7) 設定遊び

「設定あそび」は、一人ひとりの興味・関心を生かし、幼児の意欲を引き出し、モチベ

ーションを高めて、個別教育計画上の個々の目標に迫ることをねらいとしている。具体的には、「自発的に生き生きと活動」し、「教師への信頼感を基盤として、教師や友だちと一緒に遊んだり活動したりすること」、「身近な物や遊具などに興味・関心をもち、それを使って遊ぶ力を育てること」などが挙げられる。わかりやすい文脈を設定し、好きな物や好きなことを手がかりに要求を伝えたり、集団での活動を通して幼児相互にコミュニケーションしたり、情動の共有をしてやりとりしたりする機会を設ける。

## 8) 個別指導

幼稚部における個別指導は、幼児一人一人の実態や課題に即して、主に教師との関わりを深めることや幼児の実態をとらえることをねらいとしている。具体的につけたい力としては「教師や友達に自分の気持ちを伝えたり、簡単な指示に応じたりする力」「模倣して、気付いたり学んだりする力」「教師への信頼感を基盤にして、教師や友達と一緒に遊んだり活動したりする力」「『やった、できた』『楽しかった』など満足感や達成感を味わう力」「身近なものや遊具などに興味・関心をもち、それを使って遊ぶ力」「自分の体を動かして操作する力」など、個に応じて多岐にわたる。週1回程度教師と一対一で実施し、言語、遊び、認知、自立活動などにかかわる内容を扱う。集団場面では機会が設定しにくい活動を取り上げ、濃密な関係形成、詳細な実態把握、認知学習の確実な積み上げを行う機会とする。

## 9) 行事Ⅰ（運動会、大塚祭等、全校行事に関する活動）

幼稚部では、全校的な行事に参加することで、力強さや厳粛さ、感動の場を共有することや、学習成果を発表する経験を積み重ねることをねらいとしている。具体的には「『やった、できた』『楽しかった』など満足感や達成感を味わう力」を育てる。小学部以上の児童生徒の上手な発表を鑑賞したり、発表を家族の方にほめてもらったりする機会とする。参加のしかたについては、幼児にとって無理がないこと、有意義であることを配慮している。

## 10) 行事Ⅱ（遠足、校外保育、お楽しみ会等、幼稚部単独の活動）

一年の節目で行うさまざまな行事については、幼稚部では、身近な人と一緒に活動する中で興味・関心を育て、さまざまな経験をすることをねらっている。具体的には「身近なものや遊具などに興味・関心をもち、それを使って遊ぶ力」を育てる。年中行事については設定保育造形での制作やあつまりでの音楽活動と連動させて行うことが多い。遠足やお楽しみ会などは、親子の関わりや親睦を重視した活動として保護者との協働で実施する。



幼稚部でつきたい力	学習内容表 7領域との関連	指導形態							
		日 生	自由 遊び	あつまり	表現	造 形	体 育	設定 遊び	個別 指導
○ 起きる、食べる、遊ぶ、寝るなど一日をリズムよく生活する力	生 活	◎							
○ 排せつ、食事、衣服の着脱など基本的な身辺処理を行う力	生 活	◎							
○ 教師や友達に自分の気持ちを伝えたり、簡単な指示に応じたりする力	コミュニケーション		○	○	○	○	○	◎	○
○ 模倣して、気付いたり学んだりする力	認 知 身体・運動			○	◎			○	○
○ 教師への信頼感を基盤にして、教師や友達と一緒に遊んだり活動したりする力	関係の形成と 集団参加	○	◎	○	○	○	○	◎	○
○ 「やった、できた」「楽しかった」など満足感や達成感を味わう力	関係の形成と 集団参加 認知	○	○	◎	○	○	○	○	○
○ 身近なものや遊具などに興味・関心をもち、それを使って遊ぶ力	関係の形成と集 団参加 認知		○		○	◎	○		○
○ 自分の体を動かして操作する力	身体・運動		○		○	○	◎		○

図 1 指導形態とつきたい力の関連

#### 4. 学級編成

2学級編成であるが、年齢は3歳～5歳の3学年であり、各年度の実態に応じて学級編成を検討する。個別指導以外の教育活動は、すべて2学級合同で実施する。

#### 20XX年の在籍幼児の状況

	人数			通園形態等		教員体制
	男	女	合計	新入児	併行通園(連携先)	
3歳児	1	1	2	2	1 (民間療育機関)	部主事 (支援部兼務) 1名 担任 4名 連携支援担当 (支援部兼務) 1名
4歳児	2	4	6	1	3 (幼稚園1、保育所2)	
5歳児	3	0	3	0	1 (保育所1)	
	6	5	11	3	5	

## 5. 週時程表

	月	火	水	木	金
9:15	個別指導				
9:45	登校 学級での指導・朝の支度 (着替え、排泄、片付け)				
10:45	自由遊び				
11:15	朝の集まり				
	設定保育 『造形』 『体育』 『表現』	自由遊び 設定活動 <small>にこにこひろば</small>		設定保育 『造形』 『体育』 『表現』	
11:55	排泄、移動、手洗い				
12:00	給食 (準備、食事、歯みがき、後片付け)				
12:55	自由遊び	帰りのしたく		自由遊び	
	帰りのしたく	集まり		帰りのしたく	
	集まり			集まり	
下校時刻	14:00	14:00	13:30	14:00	14:00

## 6. 年間指導時数

	日常生活の指導(遊び含む)	あつまり	設定保育	個別指導	行事	合計
週時間	13・5/6h	3・3/4h	2・2/3h	1h		21・1/4h
年間時数	567・1/6h	153・3/4h	109・1/3h	25h	31h	886・1/4h